

石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場
令和4年12月1日

石狩湾沿岸における今漁期（令和5年1～3月）の漁況は次のようになる見通しです。

- 漁期序盤（1月）：4～5歳魚（2018, 2017年級）の大型・高齢主体。来遊量は「減少」
※ 序盤の来遊は資源状態以外の要因にも左右されます
- 漁期中盤（2月）：3～5歳魚（2019～2017年級）主体。来遊量は「増加」。
- 漁期終盤（3月）：2～3歳魚（2020～2019年級）主体。来遊量は「増加」。
※中盤以降増加見込みですが、昨年度より小型魚が多くなる可能性が高いです。
※近年、漁期終盤にも大型個体の来遊が多いですが、この大型魚の来遊動向は不明です。

本年10月に留萌沖で実施した試験調査船「北洋丸」によるトロール調査では、尾叉長23～28cm台の2歳魚（2020年級）が多く採集されました（曳網距離1000mあたり1,687尾, 68%）。2歳魚を除けば、3歳（2019年級）、4歳（2018年級）、5歳（2017年級）が、それぞれ286尾（12%）、213尾（9%）、220尾（9%）採集されました。また、少ないながらも1歳魚（2021年級）や6歳（2016年級）以上のものも採集されました（それぞれ、0.4%、3%）。

上述の調査結果が今漁期に来遊するニシンの年齢組成を反映していると仮定すると、今漁期の来遊の中心は2～5歳（2017～2020年級）と考えられます。2022年度実施資源評価の解析では、今漁期の資源量は、3歳魚は前年度の1.9倍程度に増加、4歳魚は前年度の0.6倍程度に減少、5歳魚は前年度と同程度と予測されています。2歳魚（2020年級）は、若齢のため資源解析に基づく予測が困難なので、トロール調査での採集状況を参考にしました。今年度の全調査点（5点）における2歳の平均採集尾数は昨年度より「増加」しました。

石狩湾系ニシンの来遊は、例年、漁期前半には高齢・大型魚が来遊し、漁期が進むにつれ、小型魚中心にシフトしていきます。この特徴から考えると、漁期序盤（1月）は4～5歳魚中心、中盤（2月）は3～5歳魚中心、そして終盤（3月）は2～3歳魚が来遊の主体となると思われます。このような来遊パターンを想定すると、今漁期の来遊量は昨年度比で、序盤では「減少」、中盤では「増加」、終盤では「増加」と見込まれます。ただし、中盤以降、昨年度より小型魚が多くなる可能性が高い見込みです。

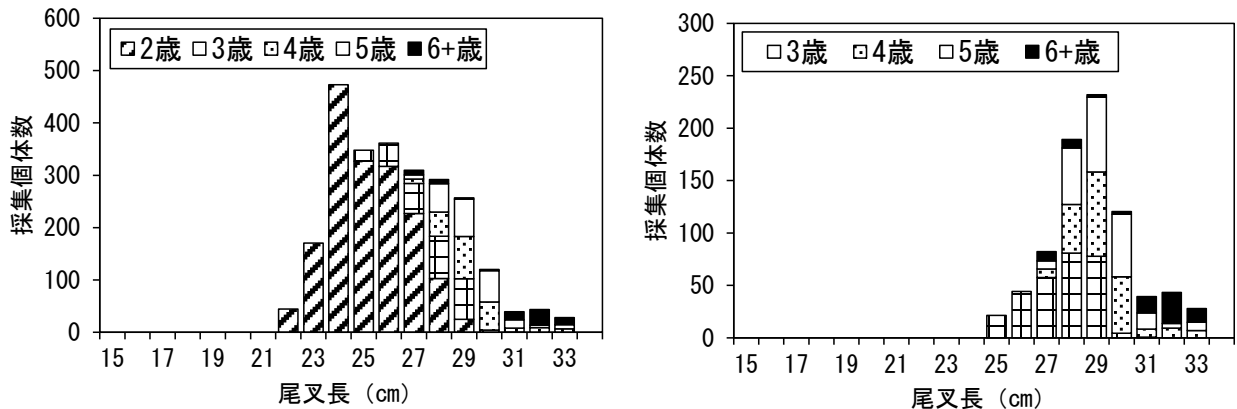


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成（各調査点（5点）での曳網距離1,000mあたり採集尾数の平均、右図は2歳を除いたもの）

お問い合わせ：中央水試資源管理部（☎0135-23-8707）